

グリーンピース・ジャパン  
ニュースレター  
2025 SPRING

地球のために、いま動く

# Greener



市民の力が未来をかたち創る

## ゼロエミッションを 実現する会

国際プラスチック条約  
現地ルポ

体育館は寒い？  
温熱調査実施

GREENPEACE

特集 ゼロエミッションを実現する会

# 市民の力が 未来をかたち創る

たとえ小さくても、思いをもつ人たちの集まりは社会を変えられる——  
温暖化に危機感をもつ市民が各地でグループを立ち上げ、  
自治体の気候政策に次々と変化を起こしています。



**私**たちの暮らしと密接に関わる自治体には、住民の声を直接伝えるためのしくみがさまざまあります。選挙やパブリックコメント、住民説明会、議会の傍聴など、自治体が機会を提供するものだけではありません。住民側も行政への要望や議会への請願・陳情を提出したり、審議会の委員に応募したりすることができます。

こうした市民参画のしくみを通して、自分が暮らすまちの脱炭素をいち早く達成することをめざすコミュニティが「ゼロエミッションを実現する会」(以下、ゼロエミ)

です。2020年にグリーンピースが立ち上げて以来、市民の活動は活発化し、自治体の温室効果ガス削減目標の引き上げや、議会での気候対策の強化を求める要望書の採択、高校の断熱改修など次々と実現しています。

昨年12月、2024年の活動や成果を振り返る「いまココ会議」をグリーンピース事務所でオンライン開催。東京、神奈川、千葉、茨城のチームが報告を行いました。会場で発表したチームの成果をまとめてご紹介します。

※ゼロエミではチーム名を独自に付けることを推奨しています

## ゼロエミ参加者の これまでの成果 (一部)

- 2021 ● **長野県：温室効果ガス削減目標を60%に引き上げ**  
ゼロエミでパブコメ提出を呼びかけ、県知事もパブコメの声に言及
- 2022 ● **東京都：住宅の太陽光パネル義務化**  
反対の声が多いなか、都への応援パブコメを呼びかけ、賛成過半数で可決  
**国：新築住宅の断熱義務化**  
専門家とともに議員に働きかけ、国会で法案が見送られる予定だったところ一転可決
- 2023 ● **川崎市：住宅の太陽光パネル義務化**  
東京都と同様、パブコメでの「賛成」が決め手に



ゼロエミッションを  
実現する会

地域から気候危機をとめるために行動する、市民のコミュニティ。グリーンピースが立ち上げ、事務局を担っています。現在スタッフ5名とインターンが、情報共有や相談、定例会、セミナーなどを通して市民の活動をサポート。参加者は全国に拡大中です。

全国のグループマップ  
<http://zeroemi.org/map>



## 木更津市を 再エネ促進区域に設定

### 千葉県 (6つの市)

ゼロエミちばけん  
2023年2月発足／メンバー6人

発表者／佐藤多津子さん



千葉県の温暖化対策実行計画へのパブコメをきっかけに発足し、勉強会の開催などで県議会議員への政策提言を続けてきたチーム。自治体へのアクションも行うべく、参加者が在住する木更津市に着目。同市は2030年のCO<sub>2</sub>削減目標60%を掲げるものの、対策が不十分です。建築物省エネ法の「再エネ促進区域」制度を活用すれば、自治体が設定した区域で太陽光発電などの再エネ利用が進み、建築物の省エネ性能も向上します。木更津市の設定を求める陳情書を提出したところ、採択されました！

## ハードル高い区で 再エネ100%化の採択

### 東京都文京区

文京区ゼロエミ  
2021年発足／メンバー7人

発表者／菅谷幸子さん



請願数が多く、2023年度は49件のうち2件のみ採択とハードルの高い文京区。チームが以前出した削減目標引き上げの請願も通りませんでした。同区は2022年にゼロカーボンシティを宣言し、区庁舎が再エネに切り替えられたものの、区立学校には行き渡っていません。そこで先行事例となる港区を取り上げつつ、文京区の状況も内容に反映させ、区有施設の再エネ100%導入を求める請願を提出。採択となり、行政担当者からはスムーズに進められるようになったとのコメントも頂きました！

## 新天地で市の削減目標 引き上げ達成

### 茨城県牛久市

ゼロエミうしく  
2024年1月発足／メンバー6人

発表者／澤田智子さん



東京から引っ越した牛久市の2030年削減目標は33%と低く、市長に手紙で気候変動対策の重要性を訴えても、返答はありきたりなもの。地域の環境勉強会を見つけて参加すると、リタイアして社会貢献活動をする方との出会いがあって、昨年1月にグループ立ち上げ。SNS発信や定期勉強会を始め、勉強会には議員も参加するようになりました。8月に削減目標の引き上げを求める請願を提出。プレゼンで協力者の専門家が引き上げ可能な理由やメリットをデータに基づいて説明し、満場一致で採択されました！

## 全国初、公共施設で 再エネ100%導入

### 東京都港区

ゼロエミッション港を目指す会  
2020年9月発足／メンバー6人

発表者／吉永瑞能さん



都内でCO<sub>2</sub>排出量が最多だった港区。ゼロカーボンシティ宣言の表明を求める請願を2020年に提出し、プレゼンと質疑応答を実施。満場一致で採択され、区の方針を変える一歩となりました。これまで提出した請願は12本で7本が採択。全国初となった区の全施設での再エネ導入は、情報公開請求を行って区有施設の電力契約リストを作成し、全件把握してから100%切り替えを要望しました。その結果、港区は2030年CO<sub>2</sub>削減目標51%を超える63%削減に。チームの成果は何度も新聞に取り上げられています。



港区議会での採決の様子

## 署名から1年半 8校の断熱改修が実現

### 神奈川県横浜市

ゼロエミ横浜  
2021年8月発足／メンバー8人

発表者／梶本寛子さん



夏暑くて冬寒い学校の環境改善をめざし、断熱改修を求める署名を文科省大臣へ手渡ししました。国の反応は思わしくなかったため、予算要望書を横浜市や神奈川県の議会へ提出。神奈川県では多くの校舎が昭和40年代の建設で断熱材が入っていません。その後も議員と行政への説明や働きかけを続け、防水工事に合わせて高校8校で天井への断熱材導入が決定しました！昨年1月には、県内の他団体と合流して「かながわ脱炭素市民フォーラム」を発足。影響力のある神奈川県での展開に期待が寄せられています。



2023年8月、学校教室の断熱改修を求める署名約2万7千筆を提出

## 定期的な勉強会 地域に仲間が増えた

### 埼玉県 (ときがわ町)

サステナブルタウンときがわ  
2024年6月発足／メンバー5人

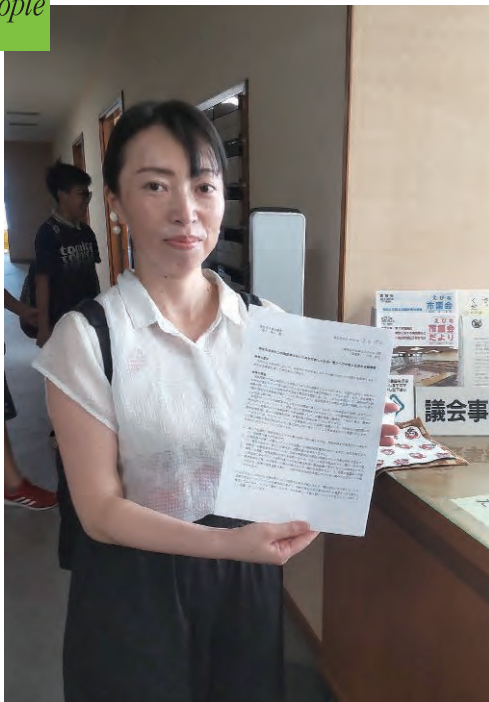
発表者／橋本容子さん



10歳の息子が大人になる頃を思い、気候危機を進行させたくないゼロエミに参加。社会を変える市民のためのチーム構築を講座で学びつつ、半年ほど仲間集めに取り組みました。昨年6月に開いたお話を機に仲間が増え、グループを立ち上げて定期的なゼロカーボン勉強会を開催しています。メンバー5人、サポーター14人、協力団体3つの体制となり、町の温暖化対策計画をつくる動きも。環境審議会の公募委員に採用され、選挙の際には地元の国会議員に直接声を届けるなど活動が広がっています。

### 自治体が行う 気候変動対策

- \*ゼロカーボンシティ宣言  
2050年までにCO<sub>2</sub>排出実質ゼロをめざすことを宣言
- \*温暖化対策実行計画  
自治体がつくる気候対策(名称は自治体による)
- \*効果の高い脱炭素施策  
省エネ対策(建物の断熱等)や再生エネの導入など



## 経験ゼロから始めた わたしの陳情物語

地位も専門知識も名刺さえもない自分に何ができるだろう。でも中学校の授業で習った地球温暖化は、大人になっても解決されず悪化していくばかり……。世界は変えられなくても、自分の暮らすまちなら何かできるかも、と「ゼロエミッションを実現する会」(以下、ゼロエミ)に参加した神奈川県海老名市の小田彩子さん。市議会で陳情が了承されるまでの道のりを語ってくれました。

海老名市議会への陳情書を提出する小田彩子さん (2024年8月)

### 動き出したら政治が身近に

「一人で行動するのが好きなタイプ」という小田さんは、ゼロエミのホームページを見ながら動き始めます。最初のアクションは、ゼロエミが選挙時に呼びかけていた「候補者に気候変動について質問する」こと。勇気を振り絞って声をかけると、皆話を聞いてくれ「候補者の方も普通の人だった」ことに驚いたそうです。

次に、市議会議員に一般質問をしてもらうことに挑戦。首長や行政は議会で議員の質問に答える必要があり、気候変動に関して質問してもらうことは有効な方法です。2023年12月に学校教室の断熱化について、翌年3月には温暖化対策や脱炭素社会実現への取り組みについて、質問をしてもらうことができました。

遠いものだと思っていた政治が、知れば知るほど実は生活と一緒にのものであると実感。「もっと関わっていかなければ」と自分で陳情を出すことを決意します。ゼロエミの過去の成功事例から学び、メンバーにも相談しながら、2024年3月から約半年の間に3通もの陳情書を書き上りました。

### 不了承でも「ワクワクした」

最初の「市内で再エネ電力への切り替えを求める」陳情は、残念ながら不了承。委

員会の全議員と電話や面談で話した時は良い感触でしたが、環境政策への関心が必ずしも高くなかった、と振り返ります。それでも「別にめげませんでした。次はどうしようってワクワクしました」と小田さん。「陳情なんて怖い!」と思っていましたが、一歩踏み込んでみると楽しかったんですね」

そして6月に「市内の小中学校に太陽光発電と蓄電池の促進を求める」陳情を提出。学校に太陽光発電を設置すれば、校内で電力を賄って省エネ、環境教育の一環にもなり、緊急時に非常電源としても活用できることを訴えました。結果、賛成多数による趣旨了承を得ました。

続く9月の「市内の公共施設において再エネへの切り替えを求める」陳情では、再エネ電力会社への切り替えは簡単で、初期投資は不要、再エネを安く購入できるなどメリットを内容に含めます。ついに委員会で満場一致の趣旨了承となりました。

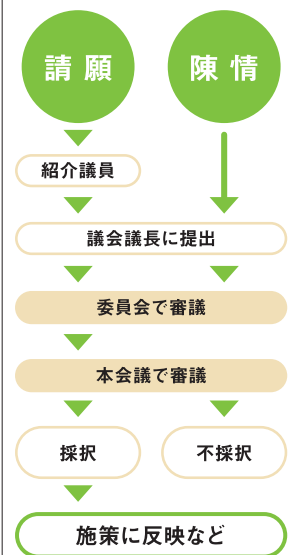
小田さんは、どんな相談にも寄り添うゼロエミが背中を押してくれたと話します。「皆さんの行動力が素晴らしい。自分だけではできない大きなことも、スピード感をもってできると思います」。ゼロエミは、小田さんのようにひとりで一歩踏み出した人たちの集まりです。変化をつないで大きくしていくために、グリーンピースは市民の活動をサポートし続けます。



息子さんと国会議事堂を見学 (2024年7月)

### 請願・陳情とは?

自治体などへの要望を文書で議会に伝える制度。請願は議員の紹介が必要で、陳情は不要。※請願・陳情の流れは議会によって異なる場合がある





© Greenpeace / Sungwoo Lee

現地  
ルポ

## 国際プラスチック条約 条約内容の合意は見送りでも 世界の市民の声が届いた

プラスチック汚染の解決をめざす国際プラスチック条約。昨年12月、条約締結に向けて最終ラウンドとなるはずだった韓国での政府間会合は合意に至らず、交渉が2025年に持ち越されました。日本から政策渉外担当と共にオブザーバー参加した広報の平井が、現場での出来事や交渉のハイライトを報告します。

### 100カ国以上が生産制限に立ち上がった

5回目となった政府間交渉委員会の会合。交渉は非常に難航しました。ルイス・バジャス議長が事前にまとめた条文案をもとに議論が進められたものの、プラスチックの生産制限や添加される化学物質の規制、資金面などで、各国間の見解の相違が目立ちました。そうしたなか、本会合のハイライトともいべき会見が11月28日に開かれました。100カ国以上が世界的な生産規制に賛同する提案書を提出し、会見を行ったのです。グリーンピースも多くの国が賛同するよう、積極的に働

きかけを行いました。この提案書をリードしたのはパナマの交渉官であるファン・カルロス・モンテレイ氏です。力強い口調で「私たちはプラスチック汚染を解決する条約を作るために、ここに来ている」と語り、会場は大きな拍手に包まれました。

これは、それまで停滞していた条約交渉の現場を奮い立たせた瞬間でした。私自身、初めての国際会議で最も印象に残った場面です。この提案書に日本が賛同しなかったことは、非常に残念に思

います。

野心的な国々の代表が難航する交渉にあらがう場面は、最終日にも見られました。「プラスチック汚染に関する高野心連合」の加盟国が記者会見を開き、実効的な条約の実現を改めて訴えたのです。

登壇したのはフィジー、メキシコ、フランス、パナマ、ルワンダ、EUの代表。会場には賛同国の代表者らが多数詰めかけ、入室できない人が続出するほど盛況でした。

## 日本は消極的な姿勢を変えず

日本はこれまでの会合と同様、生産規制について「国別事情」を重視する立場を堅持し、国際的な共通ルール形成に消極的な姿勢を示しました。2022年のG7で提唱した「2040年までに追加的汚染をゼロにする」という目標設定を一貫して主張している点は評価に値します。しかし、このままではプラ生産量が2050年までに3倍に増加すると予測されています。生産制限をしないまま、流出したプラごみの規制や処理といった下流対策

に頼るだけでは、汚染を解決することができません。

プラスチック汚染に苦しむ国々や、気候変動により生活基盤を脅かされている人々が野心的な条約を求めるなか、日本は高野心連合のメンバーでありながら、その声明にも、100カ国以上が賛同した提案書にも賛同しませんでした。こうした姿勢からは、国際的なリーダーシップが見られなかったと言わざるをえません。

### In Pictures

## 現地でのグリーンピースの活動 **さまざまなイベントやアクションで、世**

© Seunghyok Choi / Break Free From Plastics / Uproot Plastics Coalition



### Pre-Event

#### 1500人がマーチ 機運を盛り上げる

開幕2日前、グリーンピースも加わる国際的な脱プラネットワークを中心に、約1,500人が野心的な条約の実現を求めて会場周辺を行進しました。驚いたのは参加人数の多さと活気に満ちた明るい雰囲気です。集合場所となった公園にはステージが設置され、次々と流れるテンポの良い音楽が熱気をいっそう高めました。ソウル事務所のスタッフによると、韓国では抗議活動が市民の当然の権利として受け止められているそうです。

© Greenpeace / Sungwoo Lee



### Day 0

#### 世界のリーダーに皆の声を届ける

11月24日、グリーンピースと他団体は182カ国以上で集めた289万9,202筆の署名を、交渉に参加するルワンダ環境管理庁長官と米国上院議員に提出。署名は世界中の人々の声を象徴する地球儀のオブジェにして届けられました。手渡したのは詩人のニキータ・ギルさんと韓国の若いアクティビストである12歳と8歳の少女。心に深く響く彼女たちのスピーチに、会場からは大きな拍手が湧き起こりました。

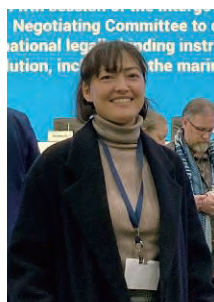
## 実効性のない条約の締結は回避

翌朝まで議論が続くと見られていた最終日。議長が改めて提示した条文案に対し、理事や加盟国は交渉の継続を支持せず、夜中の3時ごろに終了しました。生産制限などに対する各国の対立の溝が埋まらず、今回の会合では条約成立に至りませんでした。

一方で、生産削減に反対する一部の国々や、会合に大挙して参加していた化石燃料業界のロビイストたちは、条約を弱めようと強力に働きかけていました。そのため、実効性のない条約が成立してしまうリスクも小さくなかったのです。多くの加盟国、数々のNGO、市民社会グループがそれを阻止し、「野心的な条約以外は認めない」と断固たる姿勢を示せたことは、一つの大きな成果だったといっても良いでしょう。

持ち越しとなった条約交渉は、今年8月にスイ

スのジュネーブで再開される予定です。世界で増え続けるプラスチックは、環境に流出するプラごみによる汚染や生物多様性の損失、私たちの健康被害だけでなく、そのライフサイクルで排出される温室効果ガスによって気候変動をも悪化させています。ジュネーブでこそ、プラ汚染をくい止める効力のある条約制定を実現すべく、グリーンピースは活動を続けていきます。



**平井ナタリア恵美**  
(コミュニケーション・オフィサー)

2021年の入職以来、プラスチックキャンペーンの広報を担当。幼少期から環境問題に関心を持っていたが、本格的に目覚めたのは東日本大震災がきっかけ。

## 界中の人々が強力なプラスチック条約を望んでいることをアピールしました。

© Greenpeace / Sungwoo Lee



### Day 1

#### 巨大な目で「交渉を見守る」

会合初日の朝、グリーンピースは会場近くに、6,472人の顔写真から描かれた巨大な「眼」の旗(幅30メートル、高さ24メートル)を掲げました。スイス人アーティストと共同制作したこの旗は、世界中の人々が交渉のゆくえを注視していることを表現したものです。釜山のあちこちから見ることができ、私も広報業務の合間に会場から確認しました！メディアにも広く取り上げられ、「私たちは条約交渉を見守っている」という力強いメッセージを発信できたことを誇りに思います。

© Greenpeace



### Day 1-7

#### 日夜続く交渉を現場から伝える

交渉が始まると、各国の代表は朝から晩まで議論を交わします。グリーンピースではアジアや欧米、中東など世界中のオフィスからスタッフが参加し、それぞれ強みと専門性を活かして活動。広報を担う私の役割は交渉の最新情報や、プラ生産制限を含む条約の重要性をメディアに伝えることです。政策渉外担当と毎晩のように報道関係者向けに情報を提供し、取材の手配やプレスリリースの配信に奔走しました。(写真は映像メディアに取材を受けた時のもの)

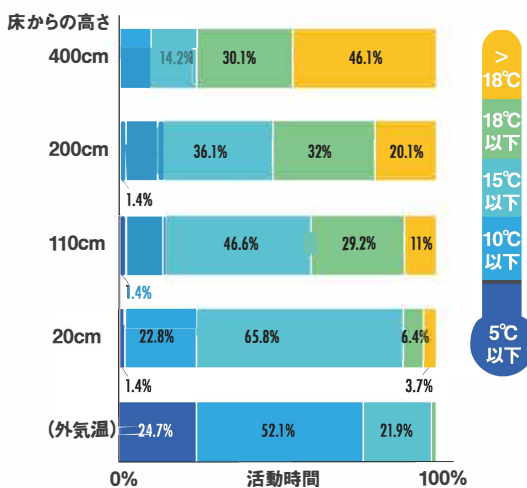
## 暖房を入れても、体育館はほぼ 18℃以下の寒さ

昨夏ご支援で実施した学校の温熱調査。第2弾として冬の体育館で調査を行いました。無断熱の体育館では、暖房を入れても十分に温度が上がらないことがわかりました。

**い** ざというとき避難所となる学校の体育館。能登半島地震では、体育館に避難した人から「困るのは寒さ。床が冷たくて眠れない」との声も聞かれました。昨夏の教室での温熱調査に続き、グリーンピースは今回、子どもたちの健康はもちろん、災害時の市民にも関わる体育館で冬の状況を調べるため、都内にある小学校で温熱調査を行いました。前回同様、東京大学の前真之准教授には調査方法や分析などでご助言いただきました。

この体育館には、国が進めている体育館への空調設置の後押しもあり、昨年にエアコンが8台設置されています。ただ、断熱改修は施されていません。測定器を床上20cm、110cm、200cm、400cm（2階ギャラリー）の高さにそれぞれ設置し、1月28日～2月6日の10日間にわたって継続的に温度を測定。この期間中、外の平均気温は8℃で、エアコンは稼働時23℃に設定されていました。

**グラフ** エアコン稼働時における体育館の温度範囲と割合（測定位置ごと）



### 足元の温度は約12℃ ずっと寒いまま

暖房を使用した時間帯のみを分析した結果、床付近（20cm）の温度は平均11.8℃で、外気温と大差がなく、18℃以下と

なった時間が9割を超えていました。床上110cmと200cmでは、それぞれ約90%と約80%の時間で18℃を下回っています。人が立ったり座ったりする空間が、ほとんどの時間でWHO（世界保健機関）の勧告する18℃以上に達していないことがわかりました。

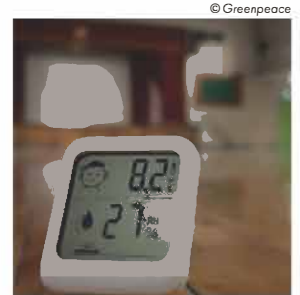
### 無断熱の体育館では床の辺りまで暖まらない

さらに特筆すべきは、高さによる温度差です。暖房を入れたあとの温度上昇を平均値でみると、床上20cmでは約8℃しか上がらなかったのに対し、床上400cmでは約15℃上昇していました。床付近と2階ギャラリーの間では、温度上昇でおよそ7℃の差が生じていたのです。エアコンはバスケットゴールの横、床上約2.5m以上の高さに設置されています。暖房を入れても、天井の高い体育館では暖かい空気が上昇し、床付近の温度が十分に上がらないことがデータで明らかになりました。床に座ったり寝たりして使用する避難時には、この点が特に課題となります。

前真之准教授は、「暖房の暖気は軽いので上に対流する。断熱材を入れて熱抵抗を上げると熱の流入そのものを減らすので、冬の寒さや暖房の低減にも効果が大きい」と指摘します。

グリーンピースの気候変動・エネルギー担当、鈴木かずえは記者会見で調査結果を発表し、次のように訴えました。

「昨今の猛暑の影響もあり、政府は学校体育館の空調設備の整備を進めるとし、支援策も打ち出しています。しかし本調査結果から、体育館を快適に利用するためには、空調設備の設置だけでなく、断熱改修もセットで施す必要性が高いことがわかりました。政府は、体育館の断熱改修を空調設置支援の『要件』と定め、100%の経済支援を行うべきです」



CO<sub>2</sub>削減と異常気象への適応策にもなる断熱を学校から広めるため、2023年グリーンピースは断熱プロジェクトを開始。

#### 全国の公立小中学校

体育館の空調設備 設置率

**22.1%**

(2024年9月1日現在、文部科学省の「令和6年9月30 日報道発表」より)

※体育館の断熱状況に関する公式データはなし

#### 断熱で電気代がお得に

15年目

体育館の工事費は、空調設置2,600万円+断熱工事4,000万円。ただし断熱で電気代が下がるため、15年で断熱改修費を回収できる。さらに40年で5,500万円の経費削減に。(文部科学省による試算)

※鉄筋コンクリート造の学校施設の法定耐用年数は50年以上

#### 署名を 始めました！

冬も夏も子どもたちが思いっきり運動できるように、そして災害時の避難所が快適となるように、体育館の断熱改修予算を求めるオンライン署名を行っています。ぜひご参加と周りの方へのお声かけもお願いします！

#### 署名に参加する

<https://act.gp/3Ra1CXO>



## 「リユース容器でランチは買える？」体験イベントを開催

**使** い捨てよりリユース（再使用）が大切なことは知っていても、普段の買い物で実践するのは難しい……。そこでリユース容器を用いた買い物を体験するイベントを昨年11月、東京・中目黒で開催しました。

当日は親子連れなど32人が参加し、まずドキュメンタリー映画『マイクロプラスチック・ストーリー ぼくらが作る2050年』を鑑賞。米国の子どもたちが奮闘する姿に触発され、「小学生が社会を変えるために行動を起こしていることに驚いた」「空気中にもマイクロプラがあるぐらい、地球が汚れていると知ってびっくりした」などの感想が飛び交いました。

続いてスタッフがプラ問題を解説。汚染の解決にはリサイクルではなくリデュースが必要で、使い捨て以外の方法を選ぶ理由や重要性などを話しました。そしてよい



© Taishi Takahashi / Greenpeace



© Taishi Takahashi / Greenpeace

リユース容器と  
中目黒駅周辺グルメMAPを手に  
買い物へレッツゴー！

よいマイ容器や貸し出しサービスの容器を用いて、飲食店でのランチ購入に挑戦！体験した人たちは「やったことがなかったので良いきっかけになった」「容器のレンタルサービスは使い勝手がよくて大満足」と笑顔にあふれていました。

いつものお店で「リユース容器を使えますか？」と尋ねてみるのも、大きな変化への一歩。行動を起こしてみませんか。



アクション・コーディネーター  
帯川真智子

フィリピンやウガンダで子どもの支援をしていた時、地面から生えているかのように、どこでも使い捨てプラゴミを目にしました。これからはリユースの時代！どの国でも綺麗な自然を子ども達に見せられるよう、皆さんと取り組めると嬉しいです。

## Update 03\_ドライビングチェンジ

### 運転時の排出量が多い自動車 国内メーカーを比較調査

**目** 本を含む多くの国で、温室効果ガス（GHG）排出の大きな割合を占める自動車部門。自動車の使用は、内燃機関エンジンを動かすためにガソリンなどの化石燃料を燃焼することで、GHGを排出します。

グリーンピースは内燃機関の廃止を呼びかけており、3月に国内自動車メーカー8社のGHG排出量を調査した報告書を発表しました。近年、気候変動対応が強化され

るなか、製造段階にとどまらず、完成した製品を消費者が使用する段階、つまり車両を運転する段階の排出量についても、企業が責任を持つという考え方が一般的になってきています。

販売台数が世界一のトヨタによる排出量は2023年に6億トン弱に達し、この量は日本全体の排出量の約半分に相当します。排出の多くは運転段階で発生します。一方、電気自動車（BEV）に特化しているテスラの排出量内訳をみると、バッテリー製造段階での発生割合が大きいものの、運転段階での割合は限定的であることがわかりました。これが気候変動対策のためにBEVが推進される根拠です。

車は私たちの生活の中でとても身近なもの。適切なデータの分析に基づいて発信していきますので、ぜひ皆さまにこの取り組みに関心を寄せていただければ幸いです。



気候・エネルギー担当  
塩畑真里子

業務や私的な理由で飛行機に乗らざるを得ないこともあり、普段の生活ではほぼ車を使わない生活をしています。この季節は運動も兼ねて少し遠出し、里山に春の花を見に行くことが楽しみ。桜もいいですが、梅、木蓮、水仙などの花も大好きです。

# 災害リスクをはらむ原発回帰より、再エネ重視のエネルギー政策を

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の発生から14年。

グリーンピースは事故直後から、福島で12年以上にわたり放射能汚染の実態を調査してきました。

原発に依存しない社会への転換を成し遂げるためにも、

再生可能エネルギーや省エネを促進する政策提言活動を続けています。

今年の3月11日、さまざまな思いを込めて以下の声明を発表しました。

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から14年が経ちました。亡くなられた方々に改めて哀悼の意を表しますとともに、大切な方を亡くされた皆様、被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

日本政府は2月18日、2035年の国別温室効果ガス削減目標を国連に提出し、その目標達成の土台となる第7次エネルギー基本計画および地球温暖化対策計画を同日閣議決定しました。日本の温室効果ガス削減目標は、2035年度に2013年度から60%の削減としていますが、温暖化を1.5℃以内に抑えるという観点からも、工業先進国としての責任からも、この目標は極めて低いものです。本来であれば、1.5℃目標に整合する78%削減を目指すべきでした。さらに原発については、福島第一原発事故後、2014年の第4次エネルギー基本計画から維持されてきた「原発の依存度を可能な限り低減する」という文言が削除されました。しかし多くの難題を抱え、計画から稼働開始までに長い時間も要する原発では、気候危機の回避に間に合いません。

## 事故処理のめども立たぬまま原発回帰

原発は運転期間が長くなるにつれリスクが増大し、地震などの自然災害に対する脆弱性も高まります。福島第一原発事故は30年以上の運転を経た原発で発生し、放射線量が非常に高いために、事故から14年経った今も、損傷した原子炉を人間が直接調査することすらできない状況です。それにもかかわらず、原発推進に方針転換することは到底許されません。

使用済み核燃料の処理についても全くめどが立っておらず、既存の保管設備は既に満杯に近い状態です。原発周辺の住民が不測の事態に安全に避難できる実効的な方法についても、多くの自治体で具体化できていない状況にあります。加えて、日本政府および東京電力は、漁業関係者や住民等の懸念を押し切る形で、事故を起こした福島第一原発からの放射性物質を含む処理済み汚染水の意図的な環境中

への放出開始に踏み切りました。放出は2051年まで約30年間続くとされています。

## 経験に学び、原発の段階的廃止を

14年前、当時の政府は首都圏5000万人の避難の可能性を検討しました。実際、東京都の浄水場では一時的な乳児への摂取制限もありました（※1）。風向きによって、放出された放射性物質の多くは海上へ運ばれましたが、風向きが異なっていたら全く違う結果になっていたでしょう。当時極秘に用意された首相談話の草案（※2）には最悪の事態が想定されたとありますが、あの事故を経験した私達は、あの時心に抱いた想いに忠実に歩んでいるでしょうか。

30年前の阪神・淡路大震災、14年前の東日本大震災、1年前の能登半島地震、その他全国各地で地震や洪水が相次いでいます。これら天災に、私達は万全

に備えることしかできませんが、原発災害は違います。原発事故は、原子力発電という発電方法を日本に住む私達が選択し利用することに起因します。幸いにも、原子力も化石燃料も使わない再生可能エネルギーによって、電力供給を代替できるようになり、快適な省エネルギーを追求する可能性が日本には数多くあります。

原発事故を二度と起こさず、将来の世代に豊かな自然環境をつなぐためには、原発をやめていくことが唯一の合理的な道筋です。政府は、エネルギーの安定供給と脱炭素化のためにも、原発や化石燃料の利用を段階的に廃止する方針を明確に示し、健康や快適性・効率の増進につながる形での省エネと、地域や自然と調和する形での再生可能エネルギーの利用を大きく進め、省エネ・再エネ立国日本を目指すべきです。



© Ryohei Kataoka / Greenpeace  
廃炉までの道筋が見えない福島第一原子力発電所。2024年11月にわずか0.7グラムの核燃料デブリが試験的に取り出されたが、残る880トンの処理までは程遠い。(2023年1月撮影)



グリーンピース・ジャパン事務局長  
サム・アネスリー

きこうそしょう **気候訴訟** *Climate change litigation*

気候訴訟とは、気候変動に関する責任を問うため、個人や団体が政府や企業に対し裁判を起こすこと。温室効果ガス排出削減や、温暖化による被害の対応が不十分であることを訴えるケースが多い。2015年のパリ協定制定後から増え、2023年までに世界で2,400件超の気候訴訟が起きている。

2024年4月には、スイスのシニア女性団体が欧州人権裁判所で歴史的な判決を勝ち取った。70代を中心とした2,500人以上の女性たちが、気候変動による熱波で健康や生活が脅かされており、気温上昇を1.5℃以内に抑えるには政府の対策が足りないと訴えたもの。グリーンピースは2016年の発起から女性たちを支援してきた。権威ある国際裁判所が「政府による



© Miriam Künzli / Greenpeace



勝訴に歓喜する原告団のスイス女性（写真左）スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさん（上）も駆けつけた=2024年4月9日

気候変動対策は人権に関わる」と判断したのは画期的で、影響はEUをはじめ各国に広がりつつある。

韓国では2024年8月、政府の削減目標や対策不足は憲法違反とする10代を含む市民の訴えに、アジアで初めて裁判所が一部違憲の判断を下した。日本でも同8月、

全国の当時14歳から29歳までの若者16人が、国内の大手電力10社に対しCO<sub>2</sub>排出量削減を求めて名古屋地裁に提訴した。若者が原告となった国内初の気候訴訟で、温暖化の悪影響を生涯受ける世代が健康的に暮らす権利を訴えている。裁判のゆくえを見守りたい。

**うごく人** 今日も地球のために vol. ①

新しいつながりと、新しい視点が得られる場をつくる

育った国フランスでは天気予報でも日々温暖化について耳にし、2019年には気候市民会議が大統領主導で開かれた。気候危機は身近な問題だけれど、就職した日本の大企業ではそれについて話す相手が見つからなかった。

仲間を見つけたくてSNSで知

った人たちに会いに行くうちに、ある人と意気投合。その友人と昨年5月、気候変動に関する交流イベントを始めた。これまで5回開催し、毎回40人ほどが会場に詰めかける。参加者は社会人や活動家もいて国籍もさまざま。「いろいろな人が出会っているんな声を聞けば、新しい視点が得られる」と語る。

心がけているのは温かくて安心できる場づくり。「私のような人見知りの人でも話せるように」と進行役のいる小さなグループに分かれ、設定した質問を話し合う回もある。不安な思いを共有し、他の人の見方を知ること、元気を取り戻した参加者がたくさんいたという。



**ルメートルリ**

福岡生まれ、フランスで育つ。就職を機に帰国し、IT大手やスタートアップ企業でマーケティング業務を経験。2024年7月、グリーンピースに入職し、デジタルファンドレイジングを担当。Instagram: @kokokara.kai

イベントを通じて新たなプロジェクトが生まれたことも。ビルの屋上などで食物を育てる「フードスケープ」の事業者が登壇した際、参加者が勤め先の企業への導入を申し出て実現した。

周りの若い世代には、悪化する気候危機に怒りや無力感を感じる人も多いと話す。「でも諦めたくないし、社会が少しでも動き始めたら、何かできるかもと思う人が出てくる。希望を見つける場を提供し続けたいと思います」

(このコラムでは今後、スタッフに限らずさまざまな「うごく人」を紹介していきます。)



主催するイベント「ココカラ」で語り合う参加者たち=2025年2月

# 小学生が 「未来の地球のために できること」として グリーンピースに寄付

今年1月、神奈川県の小田原市立三の丸小学校から素敵なお相談が届きました。「未来の地球のためにできること」というテーマで総合学習に取り組んでいた6年4組（今春卒業）の子どもたち。自分たちができることとして募金活動をするよと決め、その寄付先としてグリーンピースを選んでくれました。子どもたちの想いにスタッフ一同、胸が熱くなりました。

気持ちを受け取るべく、スタッフが6年4組を訪問し感謝状を贈呈。子どもたちからの質問に答えながら、グリーンピースの活動や寄付の使途、仕事のやりがいや大変なことなどを伝えて交流しました。

さらに後日談も。同校4年3組より、絶滅危惧種を調べる総合学習で、海のごみからリサイクル品をつくって販売するため、売上を寄付したいとの嬉しいお問い合わせ



感謝状を6年4組の児童に渡す  
グリーンピースの鈴木かずえ。環境活動や子どもたちにもできることについて話した。  
(2月10日、担任・柳川先生撮影)



がありました。子どもたちや先生、そして保護者の方々からいただいた信頼に心から感謝し、いっそう頑張ろうと思えたお申し出でした。三の丸小学校のみなさん、ありがとうございました！

お願い

## 毎月のご支援にクレジットカードをご利用の皆さまへ

2023年4月以降、クレジットカード会社のセキュリティが強化され、カード情報の自動更新が行われなくなりました。この影響により会員数が大きく減少しています。有効期限切れやお引越しなどでご登録のカード情報に変更がありましたら、お手数料をおかけしますが、更新のお手続きをお願い申し上げます。

カード情報の更新はWebフォームまたはお電話で簡単にお手続きいただけます。また、お支払い方法を銀行口座の自動振替に変更されることもお勧めしております。お電話かメールでサポーター窓口までお気軽にお問い合わせください。

### 【クレジットカード更新のお手続き方法】



<https://act.gp/3FgH3q5>

サポーター窓口

電話 03-5050-0075

(平日11:00-16:00) ※1月1日より電話番号が変わりました

メール [supporter.jp@greenpeace.org](mailto:supporter.jp@greenpeace.org)

グリーンピースは緑豊かで平和な社会をめざして環境保護に取り組む国際環境NGOです。活動は独立と中立を保つため、政府や企業の財政支援を受けず、個人からのご寄付のみに支えられています。

### ご寄付はこちらから

#### 銀行振込

●ゆうちょ銀行 記号 00110-0 番号 359782  
グリーンピース・ジャパン

●西武信用金庫 北新宿支店 普通 2054003  
一般社団法人グリーンピース・ジャパン

#### 毎月の寄付

サポーター窓口までメールか電話でお問い合わせください。お申し込み用紙を郵送します。

#### クレジットカード

Webサイトからお申し込みいただけます



### 編集後記

もっと緑豊かで持続可能な地球環境にしていきたいとの思いを込めて、ニュースレターをリニューアル。タイトルも『Greener』と名付けました。特集では、グリーンピースの原点である市民の力が結集した活動をご報告。新しいニュースレターはいかがでしたでしょうか。ご感想やこんな情報を知りたいというご要望などをQRコードから、またはメールでぜひお寄せください。(高)



### 表紙の写真

ブラジル、アマゾンの熱帯雨林に生息するマニコレマーモセツト(キヌザル科)。2000年に初めて発見された小型の霊長類で、アマゾンの豊かな生物多様性やこの地域での調査と保護活動の重要性を象徴している。

© Valdemir Cunha / Greenpeace

### グリーンピース・ジャパン 『Greener』 2025年春号

2025年4月発行 通巻42号  
発行人 ●サム・アネスリー  
編集 ●吉野良子 高城まどか  
畠田健一郎 (編集協力)  
デザイン ●小倉貴義

# GREENPEACE

国際環境NGO  
グリーンピース・ジャパン

〒105-0004 東京都港区新橋  
3-3-13 Tsao Hibiya 12F  
[www.greenpeace.org/japan](http://www.greenpeace.org/japan)



VOC FREE 100%